

英米文化学会会報

第 80 号

平成 21 年 7 月 15 日



アラモアナ・ビーチから見たホノルル国際空港の青空。米国へ行くなら直行便よりも、授業を終えた後、夜行便で日本を発って朝ハワイへ着き、半日楽しんで夕方フライトに乗り、翌日は余裕で米本土の学会へ、オアフ島の椰子の木陰で風に吹かれて波の音を聞きながら昼食後のうたた寝。いつもの贅沢な時間。
(撮影：佐野、2009年6月)

目次

- ◆ 大会担当より 英米文化学会第 27 回大会のお知らせ
- ◆ 大会事務局より 大会の宿泊・エクスカージョンの申込み
- ◆ 学術担当より 紀要『英米文化』第 40 号論文募集
- ◆ 分科会担当より 分科会開催報告
- ◆ 財務担当より 会計報告・予算
- ◆ 事務局より 会員消息・訃報

◆英米文化学会 第 27 回大会のお知らせ

(大会担当理事：高取康之)

2009 年 9 月 12 日 (土)、13 日 (日)

松江テルサ (松江勤労者総合福祉センター)

地図は 6 ページにあります。

〒690-0003 島根県松江市朝日町 478-18 (JR 松江駅前)

後援：八雲会 <http://www.yakumokai.org/>

12日 受付開始 14:30 (松江テルサ4階 大会議室)
開会の辞 <15:00-05> 英米文化学会会長 小野 昌(城西大学)
講演 <15:05-16:30>

「小泉八雲の宗教的信条——仏教思想と進化論を超えて」
大東 俊一(人間総合科学大学教授)

13日 受付開始 9:30 (松江テルサ4階 中会議室)
研究発表 <10:00-16:00>

(1) 『フィラスター』の女主人公の忍耐

蒔田 裕美(清泉女子大学大学院)
司会 曾村 充利(法政大学)

(2) ジャパニメーションの翻訳におけるセリフの間と沈黙について

安達 励人(倉敷市立短期大学)
司会 山内 圭(新見公立短期大学)

(3) 思想弾圧と大衆教化

—Thomas Paineの*Rights of Man*とHannah Moreの*Village Politics*—

閑田 朋子(日本大学)
司会 倉崎 祥子(松蔭大学)

(4) 戯曲『チェスゲーム』の問題性

—1624年の上演禁止令の理由を探る—

門野 泉(清泉女子大学)
司会 上野 和子(昭和女子大学)

(5) 1893年シカゴ万博における「リトル・エジプト」と消費社会のセクシャリティ

宗形 賢二(日本大学)
司会 佐野 潤一郎(創価大学)

(6) D. H. ロレンスの後期作品「死の船」と忘却の旅人

須田 理恵(日本大学)
司会 相良 英明(鶴見大学)

(7) *Vanity Fair*における作中人物名の意味について

中村 豪(昭和女子大学)
司会 塚田 英博(城西大学)

大会研究発表抄録

1. 『フィラスター』の女主人公の忍耐

蒔田裕美（清泉女子大学大学院）

フランシス・ボーモントとジョン・フレッチャーの合作『フィラスター』(*Philaster*, 1609) は、英国において悲喜劇というジャンルの幕開けを形作った作品として、重要な位置を占める作品である。女主人公のアレシューサは、恋人への従順を貫くという点においては、伝統的な「忍耐強いグリセルダ」型の女性の特性を継承している。しかし、彼女は単に苦難を受動的に耐えるのではなく、死をも覚悟で恋人への愛を貫こうとする強い忍耐を示すことで、悲劇に向かおうとする結末を喜劇へ転換させる役割を果たす。従来の「忍耐強いグリセルダ」型の女主人公を基盤として、劇作家が女主人公にどのような特徴を付け加えたのかを検討し、アレシューサのみせる忍耐の意味を探り、劇全体にどのような影響を与えたのかを考察したい。

2. ジャパニメーションの翻訳におけるセリフの間と沈黙について

安達励人（倉敷市立短期大学）

日本のアニメーションは「ジャパंकール」と呼ばれ、海外でも評価が高いが、アニメーション映画はここ 20 年で急速に成長した新しい領域であり、翻訳という観点からの分析は十分に進んでいるとは言えない状況にある。本発表では、邦画アニメーションの英語版を採りあげ、日本語から英語に翻訳される過程の実態を垣間みるために、セリフの間と沈黙の変化を計量的分析に基づいて考察する。発表者のこれまでの調査からは、日本のアニメーション（日本語）は、アメリカのアニメーション（英語）に比べて、1 分間あたりの平均文数が有意に少ないにも関わらず、英語に翻訳されると、アメリカのアニメーションと同程度にまで文数が増える傾向があることがわかった。本発表では、ジャパニメーションが、時間や映像の制約があるにもかかわらず、翻訳過程で文数を増加させる背景には、間や沈黙をセリフで埋めようとする目標文化の影響があるとする仮説を検証したい。

3. 思想弾圧と大衆教化

—Thomas Paine の *Rights of Man* と Hannah More の *Village Politics*—
閑田朋子（日本大学）

イギリス 18 世後半から 19 世紀前半にかけて、知識税とも呼ばれた印紙税に関する論争の高まりから撤廃までを一つのタイム・スパンと考え、その時期に思想・言論の弾圧が強化され、やがてそれがおさまるまでのあり方を追うと共に、同時期の大衆教育論争を扱い、これらがどのように同時期の小説に描かれた労働者のあり方と関連するのか、考察を行う。本発表では特に 18 世紀末から 19 世紀初頭に焦点を絞り、政府が Thomas Paine (1737 - 1809) の *Rights of Man* (1791) を危険視して発行を禁止したことに象徴される思想弾圧の時代を背景として、大衆を導く/コントロールするためのいわゆる「パンフレット合戦」の中で、Hannah More の *Village Politics* に見られるように、フィクションを通して労働者を教化する手段がとられ、19 世紀の社会問題小説のさきがけとなった様子に多少とも光を当てたい。

4. 戯曲『チェスゲーム』の問題性 —1624 年の上演禁止令の理由を探る— 門野 泉（清泉女子大学）

カトリックとプロテスタントの和平を願ったジェームズ一世は皇太子とスペイン王女との結婚を望み、皇太子自身がスペインに乗り込み結婚交渉を行なったが、結局、失敗に終わった。反スペイン感情が高まる 1624 年にグローブ座で初演された『チェスゲーム』 (*A Game at Chess*) は、トマス・ミドルトンがスペインとイングランドの関係をチェスゲームに見立て、スペインとカトリックの悪徳と墮落を露骨に風刺した作品である。時事性に富んだ劇は大評判となり、英国初のロングラン公演となった。ところが、スペイン側が上演に激しく抗議し、上演 10 日目に枢密院が上演禁止令を發布し、劇団員と作者のみならず上演に関与した関係者の大規模な取調べと処分が行われた。宮廷祝宴局長が上演を許可した作品が、なぜ上演禁止処分を受けたのか。上演禁止処分を受けた戯曲が 1 年後に、なぜ出版許可されたのか。戯曲の問題性をテキストから読み取りたい。

5. 1893 年シカゴ万博における「リトル・エジプト」と消費社会のセクシャリティ

宗形賢二（日本大学）

1893 年のシカゴ万国博覧会は、周知のように、アメリカのいわゆる帝国主義的欲望をディスプレイした装置として読み解かれる。この万博の呼び物は、欧米を中心とした科学や進歩を表す「ホワイトシティ」と、「ミッドウェイ・プレザンス」と呼ばれる「民俗学的集落」であった。ライデルによればまさに「民族の

ヒエラルキーの展示」であるが、中でもひと際異彩を放った出し物が、カイロ・ストリートのオリエンタル・ダンスであった。「リトル・エジプト」と呼ばれる中東出身の女性のダンスは、しかしながら、万博関係者は無論のこと、あのコムストックでさえも中止を命じるほど官能的なものであった。結局、財政的理由と大衆の要求によって継続してしまっただが、この「リトル・エジプト」には実は不明な点が多い。この発表では、この東洋女性の表象に集約される人種・異国趣味・セクシャリティの問題を、世紀転換期アメリカの消費社会と関連付けて再考したい。

6. D. H. ロレンスの後期作品「死の船」と忘却の旅人

須田理恵（日本大学）

D. H. ロレンスの後期作品の一つである「死の船」はロレンスの生涯を俯瞰した作品ともいえる。ロレンスは病弱で生涯にわたり病に悩まされたが、またそれゆえに「死」をつねに意識した作家であった。また同世代の作家ジョイスやブルースト等と同様にその魂は決して病に冒されることなく、健常者以上に旺盛な生活力で世界を踏破した。死の間際、深遠で錯綜した生の明暗を一瞬に垣間見るように書かれた「死の船」では、人間とは生れ落ちたときから死の船に乗り、果てしない世界への「忘却の旅」へと船出することを余儀なくさせられる、運命の旅人であったことを喚起させられる。本発表ではロレンスの本領は、さらにエトルリアの旅にも発揮されていることにも言及したい。

7. *Vanity Fair*における作中人物名の意味について

中村 豪（昭和女子大学）

*Vanity Fair*には多数の作中人物がみられる。それぞれの人物の命名法は、入念に考えられた意図的なものと場当たりの杜撰なものとの二つに大別される。意図的な名前は、その人物の性格を暗示する役割を担っており、このような命名法は、シェイクスピアの幾つかの作品における登場人物の命名法を想起させ大変興味深い。他方、杜撰な名前は、その人物を識別するための記号に過ぎない。同じ名前の人物も少なくない。また、小説の語り手は、同一人物を、その名前ではなく他の名詞で呼ぶ場合が多く、この手法のおかげで、読者は作中人物の理解を深めることができる。本発表では、この小説に登場するすべての人物の名前を分類し、続いて、意図的な名前を与えられた主要人物と物語中における彼らの言動、即ち性格との関係を明らかにする。最後に、主要人物がどのような名詞で言い換えられているかを説明し、作品分析の一助とする。

◆大会事務局より

(事務局担当理事：大東俊一)

<大会の宿泊・エクスカージョンの申込み>

第27回大会が9月12日(土)・13日(日)の両日、松江テルサ(島根県松江市：JR松江駅前)において開催され、14日(月)にはエクスカージョンが予定されております。宿泊及びエクスカージョンのお申込みは、前号の会報に記載しましたように会員各自において(株)一畑トラベルサービスへお願いいたします。なお、締切りは8月10日(月)です。

(株)一畑トラベルサービス・松江支店/学園営業所

〒690-0825 松江市学園1丁目16番50号

E-mail: gakuen@travel.ichibata.co.jp

TEL: 0852-31-7541

FAX: 0852-31-7545

担当：渡部様、門脇様



英米文化学会第27回大会会場 および周辺図 (松江テルサ)

◆ 学術担当より紀要『英米文化』第40号論文募集

(学術担当理事：上野和子)

当学会の紀要『英米文化』第40号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当の上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお送りください。

紀要『英米文化』投稿規程

<投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

<執筆要項>

1. 長さ・形式 和文論文は12,000から16,000字数の間にまとめる。A4用紙に38字×25行、フォント12で打ち出す。英文論文も4,000から5,000語数を目安とし、A4用紙に75字×25行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字表記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文のAbstractをつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所で日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一頁につき2000円である。

以上

◆分科会開催報告

(分科会担当理事：須田理恵)

7月4日土曜日（18時より）日本大学佐藤研究室にて植物と文学分科会が開催され、君塚淳一先生が、「Kate Chopin と植物と解放： *The Wakening* (1899)を中心に」を発表されました。以下、概要です。

当時センセーションを巻き起こした *The Wakening* には、主人公 Edna の女性という性への「目覚め」のみならず、様々なものへの覚醒：可能性（例えば泳げるようになる、絵画への才能、家庭における夫との関係、若い Robert との関係、コミュニティ内での自分の存在など）が挙げられることはこれまで論じられて来た。

しかしながら、彼女のその本能を覚醒させた（誘発させた）「しかけ」として Chopin が巧妙に作品で設定しているものは、彼女をとりまく「自然」である。この「しかけ」としての自然においては「海」が最も顕著で、批評家にも指摘されるものだが、植物（木や花）は、作品上の展開を示す重要なしかけとして実は繰り返し置かれているものだ。

Chopin の Emerson からの self-reliance の影響、他作品における同様なモチーフとして使用されている傾向なども考慮して論じることにする。

◆会計報告・予算

(財務担当理事：山根正弘)

6月13日、例会後の臨時総会で平成20年度収支会計報告と平成21年度予算（案）が承認されました。会計報告・予算を掲載いたします。なお、会計監査は5月29日、山下信一・河村博旨両先生により行なわれました。（詳細次ページ）

年会費の納入は、先の会報に同封致しました郵便振替用紙をご利用ください。

納入状況は、山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp に問合せ下さい。

年会費　： 5, 000円

口座番号： 00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

平成 20 年度英米文化学会収支会計報告

平成 21 年 6 月 13 日

財務担当 山根正弘

自 平成 20 年 4 月 01 日

至 平成 21 年 3 月 31 日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,923,454	事務局費	284,719
年会費	995,000	学術委員会運営費	632,016
学会誌(38号)掲載料	230,000	広報費	95,456
学会基金	847,960	大会運営費	169,256
印税	416,866	例会運営費	233,149
雑収入	19,903	理事会運営費	52,190
		翻訳プロジェクト費	5,000
		IT担当費	50,000
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	89,057
		出版助成費	847,960
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	152,607
		評議員会運営費	0
		次年度繰越金	1,688,373
合計	4,433,183	合計	4,433,183

上記会計報告について、厳正な監査の結果、適正であると認めます。

平成 21 年 5 月 29 日

会計監査 山下 信一
河村 博旨

平成 21 年度英米文化学会予算

平成 21 年 6 月 13 日

財務担当 山根正弘

自 平成 21 年 4 月 01 日

至 平成 22 年 3 月 31 日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,688,373	事務局費	250,000
年会費	1,000,000	学術委員会運営費	700,000
学会誌(39号)掲載料	334,000	広報費	120,000
印税	400,000	大会運営費	250,000
雑収入	20,000	例会運営費	200,000
		理事会運営費	80,000
		翻訳プロジェクト費	100,000
		IT担当費	50,000
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	140,000
		出版助成費	1,300,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	118,973
合計	3,442,373	合計	3,442,373

◆事務局より

(事務局担当理事：大東俊一)

<新入会員>

省略

<退会>

省略

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

英米文化学会会報 第80号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp
年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777
学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>